

2022年度前・後期 授業改善アンケート集計結果に対する意見

—法学部—

学部長 川 淳一

授業改善アンケートの結果から、なにをどのように読み取り分析して、自己の授業における課題を発見し、今後の授業改善につなげていくかは、個々の教員の判断に委ねられていることは言うまでもない。

このことを踏まえたうえで今期も全体的な結果をみってみる。今期は、調査項目の変更もあり、過去データとの比較はできない。そこで、全体平均との比較で状況を検討することにする。

まず、各項目のうち、2. この授業の内容を理解するために努力した、3. 教員は休講や遅刻をすることなく授業を行っていた、4. シラバスと授業の内容は一致していた、5. 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった、6. 教員は教室内が学習にふさわしい状態（私語等対応）に保たれているよう心掛けた、7. 教員の板書・授業資料は見やすかった、9. 教員から質問への回答や議題の返却・解説等が十分にあった、10. 授業の課題は適量であった、12. この分野への興味・関心が引き起こされた、13. この授業のレベルはあなたにとって適切であった、については、スコアは全体として良好であり、全体平均との比較においても同等であるかまたは若干上回る形になっている。このうち、学生の側の授業への貢献を示す項目は2. であり、その他は教員の側の授業への貢献を示す項目であるが、これらの項目全体から読み取れることは、法学部における授業にあっては、学生は教員の働きかけに応じてよく授業に参加しているということである。このことが、14. この授業は総合的に判断して自分にとって有意義だった、における高評価につながっていると思われる。

他方、若干気になるのは、8. 教員は発言・議論等授業参加を積極的に促していた、の項目が全体平均を若干下回っていることである。これは、法学部の授業形態が演習を除いて普通講義形式であることから生じる、やむを得ない結果であることは確かである。したがって、基本的には特に問題として取り上げるようなスコアではない。ただ、この3年間の新型コロナウイルス感染症対応の中で、我々は、zoomという新しい道具を手に入れているのであり、これを対面授業において対面形式で参加している学生にもログインさせることによって、たとえばチャットを授業と同時進行させることも不可能ではないように思われるのであって、そのようなやり方を採用するのであれば、普通講義においても8. の項目で念頭に置かれているような授業展開も不可能ではないと思われる。今後の研究課題というべきであろう。

以上